

むかし、そうしゅう 莊周、ゆめ 夢に胡蝶と為る。こくぜん 栩栩然として胡蝶なり。みずか 自らたのし 愉みて志にかな 適うか、しゅう 周なることを知らざるなり。がぜん 俄然として覚むれば、すなわ 遂にきよきよぜん 遽然として周なり。し 知らず、しゅう 周の夢に胡蝶と為るか、こちゅう 胡蝶の夢に周と為るか。しゅう 周と胡蝶とは、かなら 必ず分あらん。ぶん 此れをこれ物化と謂う。

【大体の意味内容】

むかし、そうしゅう 莊周（そうし 莊子）は自分がちよう 蝶になった夢を見た。くつきりとしたたいかん 体感をもつて、ちよう 蝶であった。たの 楽しくと 飛び回り、まわ のびやかな心のままにふるまうことができ、じぶん 自分がそうしゅう 莊周であるとはじかく 自覚できないでいた。そうしているうちにふとめざ 目覚めてみれば、われ はつと我に返り、そうしゅう 莊周であった。しかしよくかんが 考えてみるとわからないではないか、そうしゅう 莊周が、ゆめ 夢でちよう 蝶となつたのか、それともちよう 蝶が見ている夢で、いま 今このそうしゅう 莊周が存在しているのか。（げんじつ 現実）に生きているのがそうしゅう 莊周であるという保証は、どこにもないからだ）。そうしゅう 莊周と胡蝶とは、かなら 必ずや区別はあるだろうと、われわれ 我々はかんが 考えてしまふ。しかしどちらが原因でどちらが結果なのかは、だれ 誰にも判定できない。今、そうしゅう 莊周を「ほんとう 本当の自分」だと信じ込んでいることは、「ぶつ 物化」すなわちべんぎじよう 便宜上、そうしゅう 莊周の方を「じつぶつ 実物」とみなしているにすぎないのである。（いかに 怒りに任せて人をひと 殴っておきながら、「これは愛のムチだ」と言い張ることを、ぼうりよく 暴力の「びか 美化」というのと同じことである。）

